

てーま
テーマ2

す
住む、
く
そして暮らす

しゃかいしげん じゅうじつ しょうがいしゃ
社会資源は充実してきていますが、障害児・者が、
ちいき なか きぼう あ く せんたく
地域の中で希望に合った暮らしを選択することが、
まだじゅうぶん
十分できていたとは言えません。

こんご しゃかいしげん じゅうじつ しょうがい
今後、さらに社会資源を充実させ、どんな障害
があっても、できる限り自ら「住まいの場」を選択し、
す な ちいき あんしん く つづ
住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができ
るまち、よこはまめざ
ヨコハマを目指します。

そのためには、「住まいの場」を確保することと、そこで安心して暮らし続けていくために、
ひとり せいかつ じゅうぶん しえん しさく じゅうじつ ひつよう
一人ひとりの生活を十分に支援するための施策を充実させていくことが必要です。

そこで、たよう けいたい す ちいき じゅうじつ せいかつ じつげん ひつよう しさく けんとう
多様な形態の住まいや、地域での充実した生活の実現に必要な施策を検討し
ます。

とうじしゃ こえ
当事者からの声

- す ばしょ
住む場所をいろいろなところから選びたい。
- てんかん ほうさつ は、いつ出るかわからないので、24時間対応のグループホームが欲しい。
- おや な
親が亡くなったあとの緊急場所が少なすぎる。
- グループホームの空き状況がわからない。
- いりょう
医療との日常的な協力づくりがないと安心して暮らし続けられない。

とりくみ す
取組2-1 住まい

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

す せいかつ きほん しょうがいじょうきょう こうれいか さゆう だれ かのう かぎ す
住まいは生活の基本であり、障害状況や高齢化などに左右されずに、誰もが可能な限り住
み慣れた場所で住み続けられることが望めます。

いっぽう え いま す す つづ こんなん ばあい そうてい
一方で、やむを得ず今の住まいで住み続けることが困難になる場合も想定されるため、その
ばあい ととき しょうがい じ しゃ しょうきょう あ せいかつ しく
ような場合でも、その時々障害児・者の状況に合ったところで生活できるような仕組みが
ひつよう
必要です。

しょうがいしゃ きぼう じょうきょう あ ばしょ す さまざま に ーず
そこで、障害者の希望や状況に合った場所に住むことができるなど、様々なニーズに
こた たよう けいたい す こうちく すず
応えられるよう、多様な形態の住まいの構築を進めます。

し さく
施策

しょうがいじょうきょう あ す じゅうじつ
障害状況に合わせた住まいの充実

さまざま に ーず こた す こうちく
▶ 様々なニーズに応える住まいの構築

たよう きょじゅうしえん ほうほう けんとう しょうがいじょうきょう こうりょ せんもんてき
…多様な居住支援の方法について検討するとともに、障害状況を考慮した専門的な
しえん ひつよう ばあい たいおう しく けんとう すず
支援が必要な場合にも対応できるような仕組みの検討を進めます。

こうどうしょうがい かた す せんたく に ーず こた ひつよう しえんとう
また、行動障害のある方の住まい選択のニーズに応えられるよう、必要な支援等につ
けんとう
いて検討します。

しざくすいしんきようきかい す けんとう ぶかい ほうこく
施策推進協議会「住まいの検討部会」の報告

こうどうしょうがい かた ちいきいこうおよ ちいきせいかつ む ほうこうせい
～行動障害のある方の地域移行及び地域生活に向けた方向性について～

いちじる こうどうしょうがい ひと あんしん せいかつ しく づく む とくてい じぎょうしょ しせつ いそん
著しい行動障害のある人が安心して生活できる仕組み作りに向け、特定の事業所や施設に依存
するのではなく、よこはましぜんたい とく ひつよう きょうつうにんしき そうきゅう とく かだい
横浜市全体で取り組む必要があることを共通認識とし、早急に取り組むべき課題と
じんざいいくせい きよてんきのう ほうこうせい じゅうよう けつろん
して、「人材育成」と「拠点機能」の2つの方向性が重要であると結論づけました。

じんざいいくせい こうどうしょうがい かた ささ しえんしゃ いくせいおよ しえんしゃ そこあ じゅうよう きつぎん
人材育成では、行動障害のある方を支える支援者の育成及び支援者の底上げが重要かつ喫緊の
かだい ひょうじゆんてき しえんしゅほう ぜんし どうにゅう しない じんざいいくせいたいけい こうちく しない
課題であり、標準的な支援手法を全市で導入し、市内の人材育成体系を構築していくため、市内
ほうじん れんけい ほうじん わく こ おーよこはまし とく ひつよう
法人が連携し、法人の枠を超えた「オール横浜市」として取り組む必要があります。

きよてんきのう こうどうしょうがい かた しえん ちよくせつかか しょくいん そうだんいん たい せんもんてき じよげん
拠点機能では、行動障害のある方の支援に直接関わる職員や相談員に対する専門的な助言
こんさるてーしょん しつ きじゆん かんり きよてんきのう せいび ちいき せいかつ かんきよう
(コンサルテーション) など「質の基準を管理」する拠点機能を整備して、地域で生活しやすい環境
いっそうとく ひつよう と ほんし そくめん こうどう
づくりに一層取り組むことが必要であると取りまとめました。本市では、この2つの側面から、行動
しょうがい かた ちいきいこうおよ ちいきせいかつ む ひつよう しざく てんかい
障害のある方の地域移行及び地域生活に向けて必要な施策を展開していきます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
こうどうしょうがい 行動障害のある方 の住み けんとう の 検討	<p>ひつよう せいり しえんたい 必要とされる支援などを整理し、支援体 せい せいかつ しく 制のある生活の仕組みづくりについて、 けんとう すす 検討を進めます。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> はったつしょうがいしゃしえんせんたー あら ち ・発達障害者支援センターに新たに地 いきしえんまねじゃー めい はいち しょうがいふく 域支援マネジャー2名を配置し、障害福 し さーびす じぎょうしょう たい こうどうしょう 祉サービス事業所等に対する行動障 がい はったつしょうがい かか こんさるてーしょん 害・発達障害に係るコンサルテーション じっし を実施しました。 しょうがいふくしきさーびすじぎょうしょう しょくいん たい ・障害福祉サービス事業所等の職員を対 しょう こうどうしょうがい かか しえんりよくこうじょう 象に、行動障害に係る支援力向上を はか けんしゅう しなほうじん きょうどう 図るための研修を市内法人が共同 おーるよこはまし じっし て「オール横浜市」として実施しました。 こうどうしょうがい たいおう くるーぶほーむ ・行動障害に対応するグループホームに けんとう ついて検討しました。 	すいしん 推進	ちいきしえん 地域支援 まねじゃーの マネジャーの ぞういん 増員 (計： にん 4人)	○	すいしん 推進	
さぼーとほーむじぎょう サポートホーム事業 あ (はったつしょうがいしゃ たい 発達障害者に対 せいかつしえん すいしん する生活支援の推進)	<p>はったつしょうがい にゆうきよしゃ たい せいかつ 発達障害のある入居者に対し、生活 しえん おこな ちいき ひとりぐ 支援を行うことで、地域での一人暮らし む じゅんび しえん さぼーとほー に向けた準備を支援する「サポートホー む ころか けんしょう すす ム」について、効果を検証しながら進め ます。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <p>さぼーとほーむじぎょう はったつしょうがい サポートホーム事業により、発達障害の ひと せいかつしえん じっし ある人の生活支援を実施しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
養護老人ホーム 整備事業(視覚障害者の入所)	環境上の理由及び経済的理由により、居宅において養護を受けることが困難な高齢者が入所する民設民営の養護老人ホーム(平成27年度末開所予定)を港南区野庭町の旧野庭小学校跡地に整備します。その一部居室において、視覚障害者を受け入れます。 <振り返り> ・平成28年2月1日に養護老人ホーム「野庭風の丘」が開所しました。 ・平成29年5月1日時点で5人の視覚障害者が入所しています。(視覚障害者定員6人)	視覚障害者の入所実施	じっし実施	○	すいしん推進	
身体障害者・高齢者の住宅 改造及び模様替え	市営住宅に入居している障害者等の要望に対し、トイレや浴室への手すりの取付などの住宅改造を実施します。 <振り返り> 平成27年度実績：住宅改造59件(障害者対応24件、高齢者対応35件)、模様替承認154件 平成28年度実績：住宅改造37件(障害者対応27件、高齢者対応10件)、模様替承認140件	すいしん推進	平成29年度 住宅改造:35件 (障害者対応:25件、高齢者対応:10件)(見込み) 模様替承認:140件(見込み)	○	すいしん推進	

●グループホームの設置・運営*

・共同生活住居

障害のある方が地域で安心した生活が送れるよう、グループホームの設置を進めます。

また、グループホーム運営の支援を充実します。

・サテライト型住居

グループホームの趣旨を踏まえつつ、一人で暮らすというニーズにも応えていくため、支援形態の1つとしてサテライト型住居の活用について働きかけます。また、サテライト型から、さらに一人暮らしを実現するための支援の方法についても検討します。

*…「●」は障害者総合支援法に定める障害福祉サービスの内容を説明しています。

(以下同様とします。)

④【目標】グループホームの設置

		へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度
きょうどうせいかつえんじよ 共同生活援助 ぐるーぷほーむ (グループホーム) りようしゃすう 利用者数	しんきせつち ねん (新規設置/年)	200 人分	200 人分	200 人分
		実績:195 人分	実績:192 人分	205 実績: 人分
	りようにんずう ねん (利用人数/年)	3,700 人分	3,900 人分	4,100 人分
		実績:3,762 人分	実績:3,959 人分	4,164 実績: 人分
		へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
	しんきせつち ねん (新規設置/年)	200 人分	200 人分	200 人分
りようにんずう ねん (利用人数/年)	4,364 人分	4,564 人分	4,764 人分	

しょうがいしゃえんしせつ しょうがいじせつ さいせいびとう
▶障害者支援施設・障害児施設の再整備等

ちいせいかつしえんおよ じゅうどしょうがいしゃえん してん しょうがいしゃえんしせつ にな やくわり きのう
…地域生活支援及び重度障害者支援の視点から障害者支援施設が担う役割・機能やあ
り方について検討し、それらを踏まえ老朽化施設の再整備を進めます。
あわ たいしんこうぞう もんだい たてもの ろうきゅうか 生活 しせつ たいしやう た か とう
併せて、耐震構造に問題があり、建物の老朽化が著しい施設を対象に、建て替え等
による整備を行うことにより、地震や火災などの諸災害から入所者等の安全を確保し
ます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度
		もく びょう 目 標	げん じょう 現 状		もく びょう 目 標
しょうがいしゃえんしせつ 障害者支援施設の さいせいび 再整備	たいしんきじゆん み ろうきゆう 耐震基準を満たしていない、または老朽 か しょうがいしゃえんしせつ ゆ 化している障害者支援施設について、ユ ニット化・個室化を進めつつ建て替えを おこな 行います。 ふ かえ <振り返り> しょうがいしゃえんしせつ けいわせいねんりやう かいけい ・障害者支援施設「恵和青年寮」「偕恵」 とう さいせいび へいせい ねん ど ごう 等の再整備については、平成28年度で工 じ かんりやう 事が完了しました。	こうじかんりやう 工事完了 2カ所	かんりやう 完了	○	かんりやう 完了

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しょうがいじしせつ 障害児施設の せいび さいせいび 整備・再整備 (あ)	しよかん しょめ じゅうしょうしんしんしょうがいじし 市所管3か所目の重症心身障害児施 せつ せいび ろうきゅうが すす 設を整備するとともに、老朽化が進んで しょうがいじにゅうしよせつ さいせいび ゆにっと いる障害児入所施設の再整備・ユニット か すす 化を進めます。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど ふくしがたしょうがいじにゅうしよし ・平成27年度に福祉型障害児入所施 せつ み きゅうしらねがくえんじどりょう 設「ぶどうの実(旧白根学園児童寮)」 さいせいび かんりょう の再整備を完了しました。 じゅうしょうしんしんしょうがいじしやせつ ・重症心身障害児者施設について よこはま医療福祉センター港南 へいせい 「横浜医療福祉センター港南」を平成 ねん がつ かいしょ よこはま医療育医療セン 28年6月に開所、「横浜療育医療セン たー へいせい ねんど さいせいびかんりょう ター」を平成28年度に再整備完了しま した。 へいせい ねんど きゅう ・平成29年度には「ぽらいと・えき(旧 よこはまし きがくえん さいせいび かんりょう 横浜市なしの木学園)」の再整備を完了 よてい する予定です。	こうじかんりょう 工事完了 4か所	こうじかんりょう 工事完了 4か所	○	しせつじょうきょう 施設状況 とう けんとう 等により検討	
こうりつしょうがいしゃしえんし 公立障害者支援施 せつ よこはまししょうふうがく 設(横浜市松風学 えん さいせいび けんとう 園)の再整備の検討	しょうがいしゃしえんしせつ よこはまししょうふうがく 障害者支援施設である横浜市松風学 えん にな やくわり もと きのう 園の担うべき役割や求められる機能につ けんしょう さいせいび けんとう いて、検証しながら、再整備を検討しま す。 ふ かえ <振り返り> にゅうきよしゃ きよじゅうかんきょうかいぜん こしつ 入居者の居住環境改善のため個室 かどう せつけい すす どうえんしきち 化等の設計を進めるとともに、同園敷地 いちぶ かつよう にゅうしよせつ せいび の一部を活用して入所施設を整備する きほんこうそう ちゃくしゆ けつてい ため、基本構想に着手することを決定 しました。	すいしん 推進	けんとう 検討	○	こしつかとうり 個室化等の利 ようかんきょう せつ 用環境や設 び かいぜんおよ 備の改善及び しんにゅうしよせつ 新入所施設 こうじじつし の工事実施	

福祉施設入所者の地域生活への移行

…様々な社会資源のより一層の活用を図り、多様なニーズに応える住まいのあり方を構築していくことで、行動障害のある方も含めた福祉施設入所者の状況を十分に踏まえながら地域移行を進めます。

福祉施設入所者の地域生活への移行の考え方

本市においては、国の第4期障害者福祉計画指針等に基づき、平成25年度末から29年度末までに、地域生活への移行の目標数を186人（25年度末時点の施設入所者数の約12%）と見込むとともに、施設入所者数は29人（約2%）の減少を見込みました。これまでのところ、施設入所者数に関しては、見込み以上の減少数となっていますが、地域生活への移行に関しては、目標達成には至っておらず、引き続き取組を推進していく必要があります。

また、市内入所施設においては、障害特性に応じた個室化への対応などにより、一部定員数が減少しました。

国の第5期障害者福祉計画指針では、「32年度末において、28年度末時点の施設入所者数の9%以上が地域生活へ移行するとともに、32年度末の施設入所者数を28年度末時点の施設入所者数から2%以上削減することを基本とする」とされています。

このため、本市においては、同期間における地域生活への移行を135人（28年度末時点の施設入所者数の約9%）、32年度末における施設入所者数は29人（約2%）の減少を見込みますが、施設に入所して支援を受けることが真に必要なとされている新規利用者などへのサービス提供を確保する必要があること及び市外入所施設の利用者への対応などから、各市内入所施設の状況を踏まえつつ、定員数は現状を維持することとします。

本人の意向に沿った地域生活への移行が可能となるよう、引き続き、多様なニーズに応える住まいのあり方の検討を進めるとともに、必要な取組を検討・実施していきます。

【目標】福祉施設入所者の地域生活への移行

現状	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値
平成25年度末時点での施設入所者数	1,544人	平成29年度末時点での施設入所者数	1,515人 【平成28年度】 実績：1,494人	平成32年度末時点での施設入所者数	1,465人
平成25年度末時点での定員数	1,125人	平成29年度末時点での定員数	1,125人 【平成28年度】 実績：1,104人	平成32年度末時点での定員数	1,104人

福児【目標】

	へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度		へいせい ねん ど 平成30年度		へいせい ねん ど 平成31年度		へいせい ねん ど 平成32年度	
しせつにゆうしょしえん 施設入所支援 りようにんずう つき (利用人数/月)	1,530	にん 人	1,523	にん 人	1,515	にん 人	1,485	にん 人	1,475	にん 人	1,465	にん 人
	実績: 1,510	にん 人	実績: 1,494	にん 人	実績見込み 1,487	にん 人						
ふくしがたしょうがいじ 福祉型障害児 にゆうしょしえん り 入所支援(利 ようじどうすう つき 用児童数/月)	148	にんぶん 人分	168	にんぶん 人分	168	にんぶん 人分	190	にんぶん 人分	190	にんぶん 人分	190	にんぶん 人分
	実績: 150	にんぶん 人分	実績: 154	にんぶん 人分	実績見込み 164	にんぶん 人分						
いりょうがたしょうがいじ 医療型障害児 にゆうしょしえん り 入所支援(利 ようじどうすう つき 用児童数/月)	78	にんぶん 人分	88	にんぶん 人分	88	にんぶん 人分	87	にんぶん 人分	87	にんぶん 人分	87	にんぶん 人分
	実績: 76	にんぶん 人分	実績: 85	にんぶん 人分	実績見込み 87	にんぶん 人分						
しゆくはくがたじりつ 宿泊型自立 くんれん 訓練 りようにんずう つき (利用人数/月)	2,516	にんにちぶん 人日分	2,516	にんにちぶん 人日分	2,516	にんにちぶん 人日分	2,516	にんにちぶん 人日分	2,516	にんにちぶん 人日分	2,516	にんにちぶん 人日分
	実績: 2,430	にんにちぶん 人日分	実績: 2,443	にんにちぶん 人日分	実績見込み 2,447	にんにちぶん 人日分						
	96	にんぶん 人分	96	にんぶん 人分	96	にんぶん 人分	96	にんぶん 人分	96	にんぶん 人分	96	にんぶん 人分
	実績: 89	にんぶん 人分	実績: 92	にんぶん 人分	実績見込み 90	にんぶん 人分						
りょうようかいご 療養介護	189	にんぶん 人分	295	にんぶん 人分	295	にんぶん 人分	281	にんぶん 人分	281	にんぶん 人分	281	にんぶん 人分
	実績: 197	にんぶん 人分	実績: 225	にんぶん 人分	実績見込み 233	にんぶん 人分						

※ 施設入所支援は、旧身体障害者更生施設を除く。

▶ 18歳以上の障害児施設入所者の障害者支援施設及び地域への移行

…児童福祉法の改正に伴い、18歳以上の障害児施設入所者は、平成29年度末まで
に退所する必要があります。18歳以上の入所者の障害者支援施設やグループホームへ
の移行を促進します。

※ ただし、国より考え方が示され、期限を3年間延長し、平成32年度末までと
することとなりました。

【目標】18歳以上の障害児施設入所者の障害者支援施設及び地域への移行

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
18歳以上の入所者の移行人数	28人 実績:17人	28人 実績:24人	29人 7人 (実績見込み)	7人	7人	6人
移行予定対象人数	57人 実績:51人	29人 実績:27人	0人 20人 (実績見込み)	13人	6人	0人

▶入院中の精神障害者の地域生活への移行

…入院中の精神障害者の地域生活への移行を推進します。

現在実施している地域移行や地域定着のための施策を着実に推進するとともに、退院支援に携わる医療従事者及び地域援助事業者等を対象とした研修など、長期入院者の退院促進に資する取組も新たに進めます。また、長期入院者の実態や退院に向けた課題の把握も行いつつ、必要に応じて新たな施策についても検討します。

○精神障害者地域移行・地域定着支援（市事業：退院サポート事業）

精神科病院との協働活動を通じた連携体制の構築や、障害者総合支援法の「地域移行支援」の利用に至らない方への退院の動機付け、退院後のフォロー等を行い、地域移行及び定着を支援します。

【目標】精神障害者地域移行・地域定着支援事業（市事業：退院サポート事業）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
個別支援対象者数（人/年）	70人 実績:79人	70人 実績:83人	70人 87人 (実績見込み)	89人	93人	97人
実施事業所数 新規	9カ所	11カ所	12カ所	15カ所	18カ所	18カ所

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 新規	精神病床における長期入院患者の地域生活への移行を進めるに当たり、保健と医療と福祉の連携及び協議の場を通じ、重層的な連携による支援体制を構築していきます。また、長期入院患者の退院の促進を図るため、地域移行・地域定着支援事業を推進していきます。	—	—	—	—	すす 進 推 進

【目標】

	平成28年 現状値 (暫定)	平成32年度 目標数値
精神病床における1年以上長期入院患者数 (65歳以上) ※ ₁	1,173 人	1,079 人
精神病床における1年以上長期入院患者数 (65歳未満) ※ ₁	1,118 人	1,036 人
精神病床における早期退院率 (入院後3か月時点) ※ ₂	58.7 %	69 %
精神病床における早期退院率 (入院後6か月時点) ※ ₂	82.2 %	84 %
精神病床における早期退院率 (入院後1年時点) ※ ₂	91.8 %	92 %

※₁...平成32年6月末時点

※₂...平成31年6月末時点から

●地域移行支援

障害者施設等に入所している障害者又は精神科病院に入院している精神障害者につき、住居の確保その他の地域における生活に移行するための相談・同行等、必要な支援を行います。

●地域定着支援

居宅において単身等で生活する障害者につき、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に相談その他必要な支援を行います。

福 【目標】 地域相談支援 (年間の人分は延べ数)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
ちいきいごう 地域移行 しえん 支援	つき (/月)	5 人分	7 人分	8 人分	8 人分	8 人分	8 人分
		実績:2 人分	実績:2 人分	実績:2 人分			
	ねん (/年)	60 人分	80 人分	100 人分	100 人分	100 人分	100 人分
		実績:18 人分	実績:19 人分	実績:27 人分			
ちいきていちゃく 地域定着 しえん 支援	つき (/月)	10 人分	15 人分	20 人分	20 人分	20 人分	20 人分
		実績:2 人分	実績:2 人分	実績:4 人分			
	ねん (/年)	120 人分	180 人分	240 人分	240 人分	240 人分	240 人分
		実績:23 人分	実績:20 人分	実績:45 人分			

▶ 民間住宅への入居推進

…グループホームから一人暮らしを希望する障害者が地域で生活しやすくなるように、これまでの取組と併せて一体的な支援体制を構築します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	平成29年度		ひょうか 評価	平成32年度
		目標	現状		目標
みんかんじゅうたく 民間住宅あんしん 入居事業	<p>家賃等の支払能力はあるものの、連帯保証人が確保できないことなどを理由に民間賃貸住宅への入居に困窮している障害者等に対して、協力不動産店による物件の紹介と民間保証会社を利用した家賃保証により入居の機会を増やします。</p> <p><振り返り></p> <p>建築局、健康福祉局で連携を図りながら、入居者、オーナー、不動産店の利用促進につながるよう、60歳以上の単身者の方を対象に安否確認サービスモデル事業を開始し、各宅地建物取引業団体の会議で制度を周知しました(7団体)。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
みんかんじゅうたくにゅうきよ 民間住宅入居の そくしん 促進	ぐるーぷほーむとう みんかんちんたいじゅうたく グループホーム等から民間賃貸住宅への てんきよ ご たんしんせいかつ あんしん おく 転居や、その後の单身生活が安心して送れ るための仕組みについて検討し、実施します。 ふ かえ <振り返り> せいしんしょうがいしゃ す けんとうぶかい ぜん 「精神障害者の住みの検討部会」を全 かいかいさい 2回開催しました。 じゅうたくかくほようはいりよしや たいしやう あ やとう 住宅確保要配慮者を対象に空き家等を かつよう あら じゅうたくせーふていねつとせい 活用した新たな住宅セーフティネット制 ど けんとう 度を検討しています。	みんかんじゅうたく 民間住宅	にゅうきよ しゅく 入居の仕組	けんとう 検討	△	そくしん 推進		

あら じゅうたくせーふていねつとせいど そうせつ
新たな住宅セーフティネット制度の創設

へいせい ねん がつ みんかんちんたいじゅうたく あきや かつよう じゅうたくかくほようはいりよしや ていがくしょとくしゃ
平成29年10月から、民間賃貸住宅や空家を活用し、住宅確保要配慮者（低額所得者、
ひさいしゃ こうれいしゃ しょうがいしゃ いくじかていとう にゅうきよ こぼ ちんたいじゅうたく ちんたいにん
被災者、高齢者、障害者、育児家庭等）の入居を拒まない賃貸住宅として、賃貸人が
よこはまし とうろく くに じょうほう こうかい
横浜市に登録し、国がその情報を公開しています。

へいせい ねんどちゅう へいせい ねん ちゅう へいせい ねん ちゅう
また、平成30年度中に、横浜市居住支援協議会を設立し、入居後の居住支援策について、
かんけいぶきょく かんけいだんたい れんけい けんとう すす にゅうきよしゃ にゅうきよえんかつか ふたん
関係部局や関係団体と連携し、検討を進めていくほか、入居者への入居円滑化や負担
けいげん やちん やちんさいむほしやうりやうとう やす ほじよ おこ
軽減のため、家賃や家賃債務保証料等を安くするような補助を行います。

こうれいか じゅうどか ふ す こうちく
高齡化・重度化を踏まえた住まいの構築

こうれいか じゅうどかたいおう ぐるーぶ ほーむ けんしょう けんとう
▶高齡化・重度化対応のグループホームの検証・検討

げんざいじっし じゅうどかたいおうぐるーぶ ほーむ もでる じぎょう こうれいかたいおうぐるーぶ
…現在実施している重度化対応グループホームやモデル事業の高齡化対応グループ
ほーむ けんしょう おこな こんご すす みこ しょうがいしゃ こうれいか じゅうどか
ホームの検証を行い、今後も進んでいくことが見込まれる障害者の高齡化・重度化を
みす いちにち とお あんしん す かくほ めざ じぞくてき じつげんかのう す
見据えて、一日を通して安心できる住まいの確保を目指して、持続的に実現可能な住ま
あち こうちく
いの形を構築します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
こうれいか じゅうどか 高齡化・重度化 たいおうばりあふりー 改修事業	ぐるーぶ ほーむ をりようする しょうがいしゃ こう グループホームを利用する障害者が高 れい 齡になり、それに伴う身体機能の低下 とちな しんたいきのう ていか 等により、従来のホームの設備で生活す とう じゅうらい ほーむ せつび せいかつ ることが困難となる場合でも、居住して ることゝが困難となる場合でも、居住して いるホームで安心して生活し続けること ほーむ あんしん せいかつ つづ ができるよう、バリアフリー等改修に係 る経費を補助します。 けいひ ほじよ <振り返り> この3か年(ねん)で3ホーム(ほーむ)からしんせい 申請(しんせい)があり、ト イレ(いれ)や浴室(よくしつ)の改修(かいしゅう)、階段昇降機(かいだんしやうこうき)の設置(せつち) をおこな を行いました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

とりくみ
取組2-2 暮らし

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

だい きさくてい む しょうがいじ しゃ かぞく じっし あんけーと こんご きぼう
第3期策定に向けて障害児・者やその家族へ実施したアンケートでは、今後の希望する
せいかつ きほんてき げんざい せいかつ か かんが かつた おお けっか
生活について、基本的に「現在の生活を変えたくない」と考えている方が多いという結果とな
っています。

このことから、住み慣れた住まいで、引き続き生活していける支援が必要です。

そこで、みずか せんたく す あんしん く しさく すいしん
自ら選択した住まいで安心して暮らしていけるような施策を推進するとともに、
ほんにん せいかつりよく ひ だ しえん じゅうじつ はか
本人の生活力を引き出す支援の充実を図ります。

いりょうてきけ あとうせんもんてき しえん ひつよう かつた たい しさく けんとう
また、医療的ケア等専門的な支援が必要な方に対する施策についても検討します。



ちいぎ せいかつ ささ し く じゅうじつ
地域での生活を支える仕組みの充実

ざいたくせいかつ ささ ちいぎ きよてん
▶在宅生活を支える地域の拠点

ほんし どくじ せっち せいび すす きよてん しょうがい かつた かぞく
…本市が独自に設置し、整備を進めている拠点について、障害のある方やその家族の
ようせい こた きゆう じゅうじつ はか
要請に応えるため、機能の充実を図ります。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちかつほーむ うんえい 地活ホームの運営	ちかつほーむ ちいき きよてん 地活ホームは、地域における拠点として せつち 設置してきました。これからも、障 害福 し かか しゃかいしげん ちゅうしん 祉に関わる社会資源の中心として、より りよう きよてん しゃかいふくし 利用しやすい拠点となるよう、社会福祉 ほうじんがた きのうきょうか がた ちかつほーむ りょうほう 法人型・機能強化型地活ホームの両方 ちいき やくわり いちづ について、地域における役割や位置付けを めいかく あらた けんとう きのう 明確にするため、改めて検討し、機能の じゅうじつ はか 充実を図ります。 ふ かえ <振り返り> しゃかいふくし ほうじんがた ちかつほーむ ち 社会福祉法人型地活ホームについて、地 いき にーず、たい くやくしよ れんけい 域のニーズに対し、区役所と連携して、 じゅうなん じぎょうてんかい おこな せいど 柔軟な事業展開が行えるよう、制度を いちぶみなお 一部見直しました。 やくわり いちづ かんけいぶしよ また、役割や位置付けについて、関係部署 かだい きょうゆう じぎょうしょどう と課題を共有するとともに、事業所等 けんとう おこな と検討を行いました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
せいかつしえんせんたー 生活支援センターの うんえい 運営	せつちとうしよ いぼしよきのう きそん 設置当初の居場所機能だけでなく、既存 さーびす せいり さいこうちく うえ そうきたい のサービスを整理・再構築した上で、早期対 おう せいかつしえんせんたー こ かた 応や生活支援センターに来られない方など、 せいしんしょうがいしゃ そうだんきのう じゅうてん お 精神 障害者の相談機能に重点を置いた しえん じゅうじつ はか 支援の充実を図ります。 ふ かえ <振り返り> そうだんきのう じゅうてん お しえん じゅうじつ 相談機能に重点を置いた支援の充実を もくてき でんわそうだんおよ しょくじさーびすとう き 目的に、電話相談及び食事サービス等の既 ぞんさーびす せいり 存サービスを整理しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

せいかつしえんせんたーきのう ひょうじゆんか
生活支援センター機能の標準化について

かくく しょ せつち せいかつしえんせんたー えーがたせんたー していかんりほうしき
各区に1か所ずつ設置している生活支援センターは、A型センター（指定管理方式）と
びーがたせんたー ほじょきんほうしき うんえいび うんえいじかん しょくいんすう こと く
B型センター（補助金方式）で、運営日・運営時間、職員数が異なっており、区によって
うけられるさーびすが異なっています。そのため、たいいんさぽーとじぎょうのぜんくじっし
受けられるサービスが異なっています。そのため、退院サポート事業の全区実施など、かくく
じっし さーびす ひょうじゆんか む びーがたせんたー きのうきょうか はか
における実施サービスの標準化に向け、B型センターの機能強化を図っていきます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
たきのうがたきよてん 多機能型拠点の せいび うんえい 整備・運営 (あ)	じゅうしょうしんしんしょうがいじ しゃ つね いりよう 重症心身障害児・者など、常に医療 てきけあ ひつよう ひと かぞく ちいき 的ケアが必要な人やその家族の地域での く しえん 暮らしを支援するため、相談支援、生活 かいご ほうもんかんご きーび すおよ たんきにゅうしよ 介護、訪問看護サービス及び短期入所 ななどを一体的に提供できる多機能型拠 いったいてき ていきよう たきのうがたきよ 点の整備を市内方面別に進めます。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねん がつ せやく かんめ たきのう 平成29年4月に瀬谷区に3館目の多機能 がたきよてん かいしよ ぜん しよ さかえく つづき 型拠点を開所し、全3か所(栄区、都筑 く せやく たきのうがたきよてん うんえいしえん 区、瀬谷区)の多機能型拠点の運営支援を おこな 行っています。 しない かんめ せいびちけつてい む けんどう 市内4館目の整備地決定に向けて検討を おこな 行っています。	かいしよ 2か所 開所2か所 るいけい 4か (累計4か 所)	かいしよ 1か所 開所1か所 るいけい 3か (累計3か 所)	△	かいしよ 3か所 開所3か所 るいけい 6か (累計6か 所) せいびかんりよう (整備完了)	

● ちいきせいかつしえんきよてん せいび きのうせいび ふく
地域生活支援拠点の整備 (機能整備も含む)

くに かか しょうがいしゃ ちいきせいかつ しえん きのう しゅうやくどう おこな きよてん
国で掲げる障害者の地域生活を支援する機能の集約等を行う拠点*について、
きそん しせつ かつよう しゅほう ふく けんどう へいせい ねんどまつ
既存の施設を活用するなど手法も含めて検討し、平成29年度末までに1か所を設置
します。

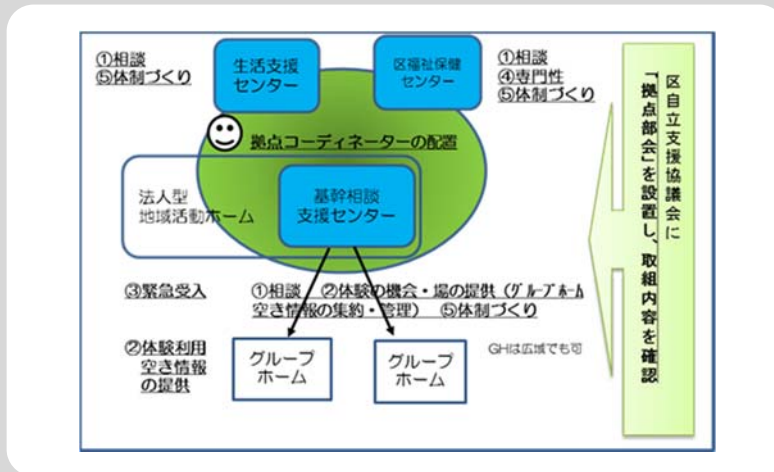
* ちいきせいかつしえんきよてん せいび くに きほんしんしん へいせい ねんどまつ せいび えんちよう
地域生活支援拠点の整備は、国の基本指針において、平成32年度末までの整備に延長となりました。

(福)

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきせいかつしえん 地域生活支援 きよてん せいび 拠点の整備	けんどう 検討	けんどう 検討	1か所 1か所	2か所 2か所	18か所 18か所	18か所 18か所
	ひょうか 実績 : 検討	ひょうか 実績 : 検討	けんどう 検討 しつぎみ (実績見込み)			

地域生活支援拠点の整備

地域生活支援拠点は、高齢化・重度化、親亡き後を見据えた居住支援機能として5つの機能（相談、体験の機会・場、緊急時の受入体制、専門性、地域づくり）を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するものです。横浜市では、基幹相談支援センター、精神障害者生活支援センターおよび区役所の3機関が中核となり相談支援体制を構築します。そのために必要なコーディネーターを新たに拠点に配置し、障害者グループホームや関係支援機関等と連携し、5つの機能を提供します。



地域生活支援拠点の5つの機能

○相談

基幹相談支援センター・区役所・生活支援センターの3機関がそれぞれの強みを生かして連携し、相談内容を共有し対応します。

○体験機会・場

定期的に、区域のグループホームの空き情報等を集約し、本人の希望にそったグループホーム情報の提供やマッチング、体験入居の機会を提供します。

○緊急時の受入対応

介護者の緊急入院などやむを得ない事情が生じた場合に、社会福祉法人型地活ホームのショートステイ床等を活用し、緊急時の対応を行います。

○専門性

障害者の生活を地域全体で支えるため、関係機関に対する専門的知識・技術の支援、指導を行います。

○地域づくり

地域生活支援拠点の機能を地域の関係機関全体の取組として広く展開するとともに、障害者の地域生活を支えるために地域の住民や団体等への働きかけや啓発活動などを行います。

※ 地域生活支援拠点の機能の詳細は、平成30年度に行う2区でのモデル実施による評価・検証を経て決定する予定です。

ちいきせいかつ ささ さーびす
▶地域生活を支えるサービス

しょうがい じょうきょう か みずか きぼう く ひ つづき
…障害の状況が変わっても、自ら希望するところで暮らしていくために、引き続き、
しょうがいじ しゃ かぞく ひつよう さーびす ていきょう じぎょう じっし
障害児・者やその家族にとって必要なサービスを提供する事業を実施します。

とく こうどうしょうがい かた しえん じゅうじつ こうどうえんごじぎょうしょ いくせい すす
特に、行動障害のある方への支援を充実させるため、行動援護事業所の育成を進めます。

きやたくかいご
●居宅介護

きやたく にゅうよく はい しょくじどう しんたいかいご そうじ せんたくどう か じ えんじょ つういん さい
居宅において入浴・排せつ・食事等の身体介護、掃除・洗濯等の家事援助、通院の際の
かいじょうどう ていきょう
介助等を提供します。

じゅうどほうもんかいご
●重度訪問介護

きやたく かいご かじなら せいかつどう かん そうだんおよ じよげん た せいかつぜんばん
居宅における介護、家事並びに生活等に関する相談及び助言、その他の生活全般にわた
えんじよなら がいしゆつじ いどうちゅう かいごとう そうごうてき おこな
る援助並びに外出時の移動中の介護等を総合的に 行います。

へいせい ねん がつ たいしゅうしゃ じゅうど したいふじゆうしゃ くわ こうどうじょういちじる こんなん ゆう
※平成26年4月から対象者が、重度の肢体不自由者に加え、「行動上 著 しい困難を有
する知的・精神 障害者」にも拡大されました。

どうこうえんご
●同行援護

しかくしょうがい いどう いちじる こんなん ゆう しょうがいじ しゃ がいしゆつじ どうこう いどう
視覚障害により移動に 著 しい困難を有する障害児・者の外出時に同行し、移動に
ひつよう じょうほう ていきょう いどう えんご たひつよう えんじよ おこな
必要な情報の提供、移動の援護その他必要な援助を 行います。

こうどうえんご
●行動援護

ちてきしょうがいたま せいしんしょうがい こうどうじょういちじる こんなん ゆう しょうがいじ しゃ じょうじ
知的障害又は精神障害により行動上 著 しい困難を有する障害児・者であって常時
かいご よう こうどう さい しょう う きけん かいひ ひつよう えんご
介護を要するものにつき、行動する際に生 じ得る危険を回避するために必要な援護、
がいしゆつじ いどうちゅう かいご はいせつおよ しょくじどう かいご たひつよう えんじよ おこな
外出時における移動中の介護、排泄及び食事等の介護その他必要な援助を 行います。

たんきにゅうしょ にちちゅういちじしえん
●短期入所・日中一時支援

さまざま りゆう いちじてき しせつ びょういんどう にゅうしょ にちちゅうす ひつよう かた
様々な理由により、一時的に施設や病院等に入所したり、日中過ごすことが必要な方
ひつようじ りよう じゅうじつ はか
が、必要時に利用しやすくなるよう 充実を図ります。

じゅうどしょうがいしゃどうほうかつしえん
●重度障害者等包括支援

かいご ていど いちじる たか じょうじかいご よう しょうがいじ しゃ きやたくかいご た ふくし
介護の程度が 著 しく高い、常時介護を要する障害児・者に居宅介護その他の福祉
さーびす ほうかつてき ていきょう
サービスを包括的に提供します。

にちじょうせいかつようぐきゅうぶとう
●日常生活用具給付等

じゅうど しんたいしょうがい かた ちてきしょうがい かたどう にちじょうせいかつ ひつよう きくどう きゅうふ
重度の身体障害のある方や知的障害のある方等に日常生活に必要な器具等を給付
また たいよ にちじょうせいかつようぐきゅうぶとうじぎょう きゅうふひんもく みなお おこな どう
又は貸与している日常生活用具給付等事業について、給付品目の見直しを行う等、より
つか せいど こうちく はか
使いやすい制度の構築を図ります。

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
きょたくかいご 居宅介護	140,521時間	149,710時間	159,499時間	124,349時間	124,504時間	124,659時間
	実績： 128,138時間	実績： 124,038時間	124,760時間 (実績見込み)			
	6,896人分	7,336人分	7,804人分	7,294人分	7,561人分	7,838人分
	実績： 6,643人分	実績： 6,787人分	6,940人分 (実績見込み)			
じゅうどほうもん 重度訪問 かいご 介護	42,593時間	45,378時間	48,345時間	69,254時間	78,288時間	88,501時間
	実績： 47,540時間	実績： 54,193時間	60,820時間 (実績見込み)			
	239人分	254人分	270人分	409人分	467人分	534人分
	実績： 271人分	実績： 314人分	347人分 (実績見込み)			
どうこうえんご 同行援護	14,649時間	15,607時間	16,627時間	16,398時間	17,205時間	18,052時間
	実績： 14,343時間	実績： 14,896時間	15,492時間 (実績見込み)			
	713人分	758人分	807人分	798人分	837人分	878人分
	実績： 694人分	実績： 726人分	745人分 (実績見込み)			
こうどうえんご 行動援護	2,833時間	3,018時間	3,215時間	12,432時間	17,171時間	23,716時間
	実績： 5,281時間	実績： 6,517時間	7,365時間 (実績見込み)			
	106人分	113人分	120人分	669人分	994人分	1,476人分
	実績： 233人分	実績： 303人分	362人分 (実績見込み)			

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
短期入所 (福祉型)	1,007人分	1,074人分	1,146人分	1,100人分	1,150人分	1,200人分
	実績: 934人分	実績: 968人分	1,041人分 (実績見込み)			
	6,251人日	6,480人日	6,718人日	6,000人日	6,150人日	6,300人日
	実績: 5,440人日	実績: 5,552人日	5,691人日 (実績見込み)			
短期入所 (医療型)	360人分	498人分	689人分	400人分	440人分	480人分
	実績: 266人分	実績: 300人分	336人分 (実績見込み)			
	1,937人日	2,619人日	3,541人日	2,000人日	2,200人日	2,400人日
	実績: 1,345人日	実績: 1,526人日	1,764人日 (実績見込み)			
日中一時 支援	411人分	411人分	411人分	471人分	479人分	487人分
	実績: 457人分	実績: 464人分	493人分 (実績見込み)			
	729回	729回	729回	783回	796回	809回
	実績: 707回	実績: 749回	817回 (実績見込み)			
日常生活 用具給付・ 貸与(年)	65,000件	65,000件	65,000件	81,000件	81,000件	81,000件
	実績: 81,008件	実績: 86,220件	82,900件 (実績見込み)			

この表における単位の考え方は以下のとおりです。

- ・「人分」「回」…月間の利用人数・回数
- ・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一月あたりの平均利用日数」
- ・「時間」…月間のサービス提供時間

(※重度障害者等包括支援は利用実績がなく、今後の利用を見込んでいません。)

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
めでいかるしょーとす メディカルショートス ティシステム (あ)	いりょうてきけ あ ひつよう じゅうしょうしんしんしょうがい 医療的ケアが必要な重症心身障害 児・者を、在宅で介護する家族の負担 軽減と在宅生活の安定を目的として、 一時的に在宅生活が困難となった場合 などに、病院での受け入れを実施しま す。 <振り返り> じぎょうかいし へいせい ねんど へいせい ねんど 事業開始の平成24年度から平成28年度 までの利用登録者数212人、利用延べ 人数366人、利用延べ日数は2,805日 で、そのうち、家族の疾病による利用は 120人でした。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
せいしんしょうがいしゃ かぞく 精神障害者の家族 支援事業 (あ)	せいしんしょうがいしゃ かぞく てきせつ かんけい 精神障害者とその家族が適切な関係 を保つため、緊急滞在場所を準備する とともに、家族が精神疾患について理 解を深める機会を提供します。 <振り返り> へいせい ねんど じぜんとうろく かいし じ 平成29年度から事前登録を開始し、事 業がより利用しやすくなりました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

ほんにん せいかつりよく ひ だ しえん じゅうじつ
本人の生活力を引き出す支援の充実

しょうがいしゃ じりつせいかつしえん こうけんてきしえん すいしん
▶ 障害者の自立生活支援と後見的支援の推進

ちいせいかつ おく しょうがいしゃ じりつ む ちいき かんけいきかん れんけい すす ほんにん せい
…地域生活を送る障害者の自立に向け、地域の関係機関との連携を進め、本人が生
かつりよく み つ ちいき あんしん く しえん
活力を身に付け、地域で安心して暮らすことを支援します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目標	げん じょう 現 状		もく 目標	ひょう 評価
しょうがいしゃじりつせいかつ 障害者自立生活 アシスタント ㊤	ちいき たんしんどう せいかつ しょうがいしゃ たい 地域で単身等で生活する障害者に対し じりつせいかつあしすたんとが、そのしょうがい 自立生活アシスタントが、その障害 とくせい ふ くたいてき せいかつばめん しゃ 特性を踏まえて、具体的な生活場面での社 かいてきおうりよく たか じよげん ちゅうしん し 会適応力を高める助言を中心とした支 えん おこな 援を行います。 <振り返り> みちか ちいき しえん う かかく 身近な地域で支援が受けられるよう、各区で じぎょう てんかい たいせい せいび すす へい 事業を展開できる体制の整備を進め、平 せい ねんど ぜんく しえんたいせい せいび 成28年度から全区での支援体制を整備し ています。	じぎょうしよすう 事業所数 40か所 ぜんくじっし (全区実施) げんじょう (現状:36 か所)	じぎょうしよすう 事業所数 40か所 ぜんくじっし (全区実施)	○	すいしん 推進	
こうけんてきしえんせいど 後見的支援制度 ㊤	しょうがいしゃほんにん しょうがいふくしきーびす かか 障害者本人に障害福祉サービスに係 る支援が必要とされていない時から関 しえん ひつよう 係性を持つことにより、「親亡き後も けいせい も おやな あと 安心して地域生活を送れる仕組みの あんしん ちいきせいかつ おく しく 構築」を行います。 <振り返り> へいせい ねんど へいせい ねんど じっしゅく 平成27年度、平成28年度に、実施区を それぞれ2区ずつ増やし、ぜんくじっし 全区実施と なりました。 へいせい ねんど こうなんく あおぼく 平成27年度：港南区、青葉区 へいせい ねんど なかく せやく 平成28年度：中区、瀬谷区	ぜんくじっし 全区実施 げんじょう (現状:14 区)	ぜんくじっし 全区実施	○	すいしん 推進	

よこはまししょうがいしゃこうけんてきしえんせいど じれい
横浜市障害者後見的支援制度の事例

ちてきしょうがい だい えー こうれい りょうしん さんにんかぞく とくべつしえんがっこう
知的障害のある 40代の A さんは、高齢の両親との三人家族。特別支援学校を
そつぎょうご しょうがいふくしきーびすじぎょうしよ つうしよ
卒業後、障害福祉サービス事業所に通所している。これまで福祉サービスをあまり利用
せす暮らししてきたが、昨年、父親が体調を崩し入院。この先の将来に漠然とした
ふあん かん ははおや こうけんてきしえんせいど せつめいかい さんか どうろく
不安を感じるようになった母親が、後見的支援制度の説明会に参加し、登録へつなが
った。

こうけんてきしえんしつ しょくいん えー りかい じたく こうけんてきしえんしつ あ
後見的支援室の職員は、A さんを理解するために、自宅や後見的支援室でお会いす
るだけでなく、通所している事業所にも足を運んだ。また、両親から、生い立ちや生活
なか はいりよ つうしよ じぎょうしよ あし はこ りょうしん お た せいかつ
の中で配慮していることなどを伺った。はじめはとても緊張していた A さんも徐々
な こうけんてきしえんしつ しょくいん じぶん きも かた ふ
に慣れ、後見的支援室の職員に自分の気持ちをぽつぽつと語ることが増えてきた。

ある日、母親が「頼れる親族が近くにおらず、我が子を気にかけてくれる人が欲しい」と語った。あんしんキーパーを探すため、本人や両親に本人と日常つながりのある人を尋ねたが、候補となる人は見つからなかった。

そこで、本人と両親の了解のもと、後見的支援室の職員が区社会福祉協議会に相談し、地域の会合で後見的支援制度の説明やあんしんキーパーの担い手を探していることをお伝えした。すると、近くに住む地域の方が協力を申し出てくれた。後日、あんしんキーパーに登録していただき、A さんと両親に紹介した。

それからしばらく経ち、A さんは、「あんしんキーパーと道で会って挨拶をしたり、地域の運動会に誘ってもらい参加した」とその後を話してくれた。母親も「家の近くに声をかけてくれる方ができてよかった」と話している。

A さんの希望は、自宅で暮らし続けること。これからも、後見的支援室は、A さんや両親の想いに寄り添いながら、将来の暮らしを一緒に考え、暮らしを支える支援の輪を丁寧に広げていく。

※ あんしんキーパーとは

み ちか どうろくしゃ み ひと ひ せいかつ なか ほんにん ようす
身近なところで登録者をさりげなく見まもる人。日ごろの生活の中で、本人の様子がいつもと違うと気づいた時に、後見的支援室に連絡をする役割を担う。

こうけんてきしえんしつ どうろくしゃ かぞく きぼう うかが きーぱー ちいき
後見的支援室が登録者や家族の希望を伺い、あんしんキーパーになってくれる地域の
ひと はたら きかけ どうろく すで ほんにん し ひと どうろく
人たちに働きかけ、登録していただく。また、既に本人のことをよく知っている人に登録していただく場合もある。

しょうひしゃきょういく すいしん
▶消費者教育の推進

にちじょうせいかつ おく しょうがいしゃ しょうひしゃ とらぶる よぼう たいおうとう まな けんしゅうかい
…日常生活を送るうえで、障害者が消費者としてのトラブル予防や対応等を学ぶ研修会
みんかんきぎょうとう きょうどう じっし
などを民間企業等と協働して実施します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しょうひしゃきょういくじぎょう 消費者教育事業 ④	しょうがいしゃ かぞくおよ しえんしゃ しょうひん さ 障害者や家族及び支援者が、商品・サ ービスの利用及び契約に関わるトラブル 等を学ぶことにより、安心して日 常 生 活を送れるよう、意識啓発を図ります。 <振り返り> けいざいきょく きょういく いんかいじむきょく けんこうふくし 経済局、教育委員会事務局、健康福祉 局の3局が連携し、特別支援学校の せいと たいしょう でまえこうぎ こう 生徒を対象とした出前講座を2校で じっし 実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

じりつせいかつえんじょ
●自立生活援助

しょうがいしゃ しえんしせつ ぐるーぷほーむ せいしんかびょういんどう ちいき ひとりぐ いごう
障害者支援施設やグループホーム、精神科病院等から地域での一人暮らしに移行
した障害者等に対し、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定の期
間 にわたり、定期的な巡回訪問や随時の対応により、必要な助言や医療機関等と
れんらくちょうせい おこな さーびす
の連絡調整を行うサービスです。

④

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
じりつせいかつえんじょ 自立生活援助 しんき 新規	—	—	—	360 人分	720 人分	1,000 人分



こうどうしょうがい ひと しえん
行動障害のある人への支援

よこはましはつたつしょうがいしやしえん せんたー 発達障害者支援センター
はつたつしょうがいしやしえんまねじやー 発達障害者地域支援マネジャー

「行動障害のある人」と聞いて皆さんはどのような人を思い浮かべますか？「重い障害がある人」、「体が不自由な人」、「精神病院に入院している人」……。おそらく、具体的な状態像を思い浮かべる事はとても困難なのではないでしょうか。表出される行動は、自分を傷つけてしまう行為や他の人を傷つけてしまう行為、激しい破壊行為や異食行動等、人によって様々ですが、家族や支援者にとって悩ましい行動であることが多いです。そして何よりも本人にとって苦しくつらい状態と言えます。

行動障害は、実はその人自身の生きづらさの表れで、特性と環境とのミスマッチによって引き起こされるということが分かってきました。そのような苦しさを抱えて止むにやまれず激しい行動を表出する方の多くが「自閉スペクトラム症」の方であるという事実は世の中にあまり知られていません。「自閉スペクトラム症」の方は社会性やコミュニケーションの質的障害、想像力の障害といった生まれつきの特性がありますが、現在はそのような人たちへの支援の方法も分かってきています。行動の背景にある特性や環境を分析し、「構造化」（環境を分かりやすくすること）や「代替コミュニケーション」（言葉のみによらないコミュニケーション方法）、「得意を生かして・苦手を補う」といった支援を行うことで、生活のしづらさが改善されるようになってきました。イギリスでは、行動障害は一時的なもので継続して起こるものではないと言われていますが、それは環境を整えることで「行動障害」を起こさなくても良いよう、地域社会が「合理的配慮」を行っているからだと言われます。

横浜市でも平成28年度から「強度行動障害支援力向上研修」を開催し、多くの支援者が受講しています。また、そこで学んだことを各事業所で実践できるように「発達障害者地域支援マネジャー」が配置され、事業所に直接足を運びながら現場での悩みや支援の工夫の相談を始めています。そのような中で、支援者が自信をつけてより良い支援が提供できるようになることを目指しています。障害のあるなしにかかわらず、自らの意思により横浜で安心して暮らしていくことができるまちを実現する！そのような思いで今日も地域支援マネジャーは横浜の地を走り回っています。



しょうがいしゃぶらん よ
障害者プランに寄せて

しゃかいふくしほうじん ほうもん いえ こもん
社会福祉法人 訪問の家 顧問
しゃかいふくしほうじん さかえくしゃかいふくしきょうぎかい かいちよう
社会福祉法人 栄区社会福祉協議会 会長
ひつら みちえ
日浦 美智江さん

ねん お しょうげきてき じけん いま ひ お きずあと こころ ぶか
2016年に起こった衝撃的なやまゆり事件、今もなお日を追うごとにその傷跡は心に深く沈み込んでいく。

わたし おも しょうがい こ て あ ねん よこはましりつなかむらしょうがっこうほうもん
私が重い障害のある子どもたちに出会ったのは、1972年、横浜市立中村小学校訪問
がっきゅう どうじほうもんしどう ねんかんおこな よこはましきょういくいんかい しょうがい おも
学級だった。当時訪問指導を3年間行ってきた横浜市教育委員会は「どんなに障害が重
くても学校教育を行いたい」と、公立小学校に一特殊学級(当時)として訪問教育と
へいごう がっこうきょういく すたーと しゅ よういくしゃ ははおや きょういん くるま
並行して学校教育をスタートさせた。そしてそこに主たる養育者である母親と教員は車
りょうりん しんらい きょういく せいか あ りねん ははおやがっきゅう
の両輪、その信頼があってこそ教育の成果は上がるという理念のもと、「母親学級」とい
う部屋を設け、その担任にソーシャルワーカー(日浦)を当てた。

じっせん にほん はつ えいだん ひとり ほうもんこうし つよ ねつい きょういくいんかい
この実践は日本で初であったが、この英断は一人の訪問講師の強い熱意が教育委員会を
うご しょう う くび すわ おお こ まいにち おどろ れんぞく
動かしたことから生まれている。首も座っていない多くの子どもたち、毎日が驚きの連続の
なか こ がっこうせいかつ たの えが おう こりつ ははおや
中、やがて子どもたちは学校生活を楽しみ笑顔が生まれ、それまで孤立していた母親たちは
ともだち ははおやがっきゅう わら ごえ ひび にぎ なかむらしょうがっこう じどう いっしょ
友達ができ、母親学級にも笑い声が響き賑やかになった。中村小学校の児童と一緒に
うんどうかい がくしゅうはっぴようかい がっこうせいかつ たの
運動会、学習発表会、学校生活は楽しかった。

ねん かいせつ にほん はじ じゅうしょうしんしんしょうがいじやつしょうせつ しゃかいふくしほうじんほうもん いえ
1986年に開設した日本で初めての重症心身障害児者通所施設、社会福祉法人訪問の家
とも げんりゅう なかむらしょうがっこう ほうもんがっきゅう がっこうきょういく なか み こ
「朋」の源流は中村小学校「訪問学級」である。学校教育の中で見せた、子どもたち
かのうせい えが お け ははおや た あ きょうし かつどう
の可能性、笑顔、それを消してはいけな、と母親たちが立ち上がり、教師たちがその活動に
きょうりょく こ しゃかい で さかえくかつらだい ば しょうがっこう ちゅうがっこう こりゅう ち
協力、子どもたちは社会に出た。栄区桂台という場で小学校、中学校、との交流、地
いきぎょうじ さんか くみん なかよ しよくいん かいじょう う ばれーど さんか がっき
域行事への参加、区民まつりには仲良しの職員の介助を受けながらパレードに参加、楽器
がっそう くみん かたがた はくしゅ えが お こた
合奏では区民の方々の拍手に笑顔で応えた。

よ う いのち むだ いのち ひと なに ね おも
この世に生まれた命、無駄な命は一つもない。何もできない、ただ寝ているだけだと思わ
れてきた子どもたちが、親を、教師を動かし、今多くの人との関係の中で、地域を動かして
いる。人は関係の中で生きている。その関係の中でみんなは大きな「はたらき」をする。そ
して人は人の中で人になり輝く。みんなの笑顔を見ながらそのことを確信しながら、改め
いとがずおせんせい このこらを世の光に」という言葉の真実を思う。「光が見える社会に」
ひかり であ なか しゃかい ひかり とも あゆ しゃかい ちいき ひろ じっせん しんじつ せいど
「光と出会える社会に」「光と共に歩む社会に」。地域に広がる実践の事実とそれを制度や
しく い ぎょうせい ににんさんきゃく く しょうがいしゃぶらん さら ゆた しゃかい
仕組みに生かす行政とが、二人三脚を組みながら、障害者プランが更に豊かな社会づくり
つな ねが おも
に繋がっていくことを願いたいと思う。